

ミサ聖祭：説教

2019年3月6日、灰の水曜日に私の二番目の姉がこの世を去りました。このことについて話すつもりは全くなかったのですが、今の詩篇116を祈ったとき、お話しする必要があると感じたのです。

姉は、私が日本に来ることを知っていましたので、そのために祈ると約束してくれました。彼女は9年間癌で苦しんでいましたが、常に死に対する恐れを抱いていました。ルクセンブルクでは、癌と告知されることは死の宣告を受けたと同じように捉えていますので、告知を受けたとき、私たちは皆ショックを受けました。

「死が怖い」という姉に、私は「あなたが恐れを抱いている間は、神はあなたを迎えることができないよ」と答えましたが、それが預言的なものだとは知りませんでした。実際、その通りになったのです。姉は長い戦いの末、まったく安心して神の御手に委ねることができるようになり、神に迎えられたのです。

姉は神によって清められ、他の靈魂が清められる手伝いをするようになるようになりました。シスターだった姉ですが、非常に困難な靈的戦いを体験しました。周りの人は、修道女がそのような激しい靈的戦いをすることが理解できませんでした。姉はよく泣きながら、「私のために祈って!」と言いました。私は悪魔の目を見ました。彼女のために祈り、祈り、祈りました。本当に大きな戦いでした。毎晩、妹と私は姉のために祈りました。

最後の二ヶ月間、私たちは毎晩詩篇116番を祈りました。

「私は生ける者の地で主の前を歩もう」「あなたは私の縄目を解いてくださった」。

姉はアブラハムとイサクが感じたと同じ死に対する恐れを感じていたのです。

福音の中に、中風の話がありますが（マタイ9：2、マルコ2：3-5、ルカ5：18-20）、彼は身体が麻痺していて自分では何もすることができませんでした。すると彼の友人たち4人が屋根から吊るして彼をイエスの前まで運んできました。

中風の人に向かって、イエスはその病気については何も触れず、魂について話されました。

「あなたの身体は癒される」ではなく、「あなたの罪は赦された」と言われたのです。

イエスは魂の『死』についてお話しになったのです。イエスは死の縄目を解いてくださった、鎖を断ち切ってくださいました。

罪というのは、私たちが死につなぐ鎖です。この鎖を解き、イエスは神の全能をあらわされました。すると、「神を冒涇した」と律法学者は思い、それゆえイエスは殺されなければならないと考えたのです。

イエスは私たちの死の鎖を、縄目を解いてくださいましたが、そのための支払いをご自身をもってされたのです。私たちが生ける者の地で歩むことができるために。

今、イエスは4人の方をこの死の鎖から解放されています。

その4人の方々は告解を済ませましたが、まだ何か残っていることに気づいています。

イエスはその方々に「立ちなさい。行きなさい」と言われます。つまり、「喜びをもって歩み始めなさい」と言われているのです。

アブラハムとイサクにとっての大きな疑問は、「羊はどこにいる？」ということでした。

他の言葉で言うなら、「解放はどこに？ 救いはどこに？」です。

どんな動物も罪を消すことはできません。唯一、罪を取り去ることができる方はイエス・キリストです。ミサ聖祭のとき、毎回私たち司祭は「見なさい。世の罪を除きたもう神の子羊」と唱えます。

死の鎖を解き放つ神の子羊、私たちのすべての病を担われた神の子羊を見なさい！

聖ペトロは、「すべての思い煩いを神に委ねなさい。神があなた方を顧みてくださるからです」と言っています。（第1ペトロ5：7）

人間は罪を犯しますが、自分で赦すことはできません。ですから、傷のない子羊、神の御子が必要でした。

身体が麻痺していた人が立ち上がり歩き出したのを見て、ひとりの人間に神が与えられた大きな力に人々は驚きまました。人々は、イエスが本当に罪を赦す権能があることを知りました。

私たちは、身体的癒し、内的癒しの両方をイエスに願うことができます。

パンとぶどう酒の奉献のとき、みなさんの心にあるものすべてを捧げてください。すべての病、苦しみ、煩い、罪を祭壇の上に置いてください。

中風の人を担いだ4人の人のように、もしあなたの靈魂が麻痺しているなら、その靈魂をイエスのところに連れて行ってください。

聖変化の前に司祭はパンとぶどう酒の上に腕を伸ばし、「あなたの聖霊を送り、この供え物を尊いものにしてください」と祈ります。その祈りによって、パンがイエスの御からだとなり、ぶどう酒が御血に変わります。神の聖なる霊の炎が、目に見えずに降るのです。

この瞬間、私はパンとぶどう酒になりたいと思うんです。

「主よ、あなたの聖なる炎をほんの少しでも私の上にも注いでください。私の心を、体を、病を変えてください。あなたの中で私を変容させてください」と言いたいのです。

ミサ聖祭のとき、毎回、聖霊の到来を祈ります。どうぞ、期待してごミサに来てください。

私たちを変容させたいと、神は思われ、そうしてくださいます。

こうして、私たちは生ける者の地で主の前を歩むことができるのです。

-----ミサ聖祭説教 終わり

SUZUME-SUZUME